

「SHIBUYA SAKURA STAGE (SAKURA SIDE)」

渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業(B・C街区)

SHIBUYA SAKURA STAGE (SAKURA SIDE)



■建築とまちが相乗効果をもたらす計画

本事業は、日本を代表するターミナルである渋谷駅の都市基盤整備を完成させるための重要なプロジェクトでした。高低差のある敷地を巡り、楽しい回遊空間に変えること、まちの文脈に合わせスケール感、素材、ランドスケープにグラデーションをかけることで、大規模複合施設でありながらも親しみのある建築にすることを目指しました。SAKURAテラスは敷地周辺の坂道と建築が一体となるように構成することで歩行者動線を確保しています。SAKURAタワーのピロティ空間は、起伏ある通路で繋がれた「丘」の風景を感じる計画としました。

■超高層RC造技術を基幹とした構造計画

本建物は様々な用途であることに加え、特異な敷地形状・起伏に富んだ周辺の地盤への対応、大幅な工期短縮など設計・施工とも高難易度課題が多くありました。これらに対して、RC造とS造(一部、SRC造)を適材適所に組み合わせ、当社技術をフルに活用し、安心安全で最適な構造計画を実現しました。度重なる変更にも苦勞しつつも、デザイン性の異なる3つの階段や軽やかで透明感のある庇から外装、外構に至るまで構造技術を粘り強く丹念に盛り込むことができました。

■複合用途を実現させる緻密な設備計画

複合する用途が平面的にだけでなく垂直方向に展開し組み合わせさせた、ある種奇木細工的な建物です。空調設備の特色としては、隣接A街区から供給されるDHCによる冷水・温水と個別EHPとの両立が挙げられます。衛生設備としては、やはり各用途の配管が縦断することもあり、特にサービスアパートメントは外資系ホテルの入居が内定していたことから、他用途設備の縦断を避けるよう建築計画の調整が施工段階まで継続検討が必要でした。

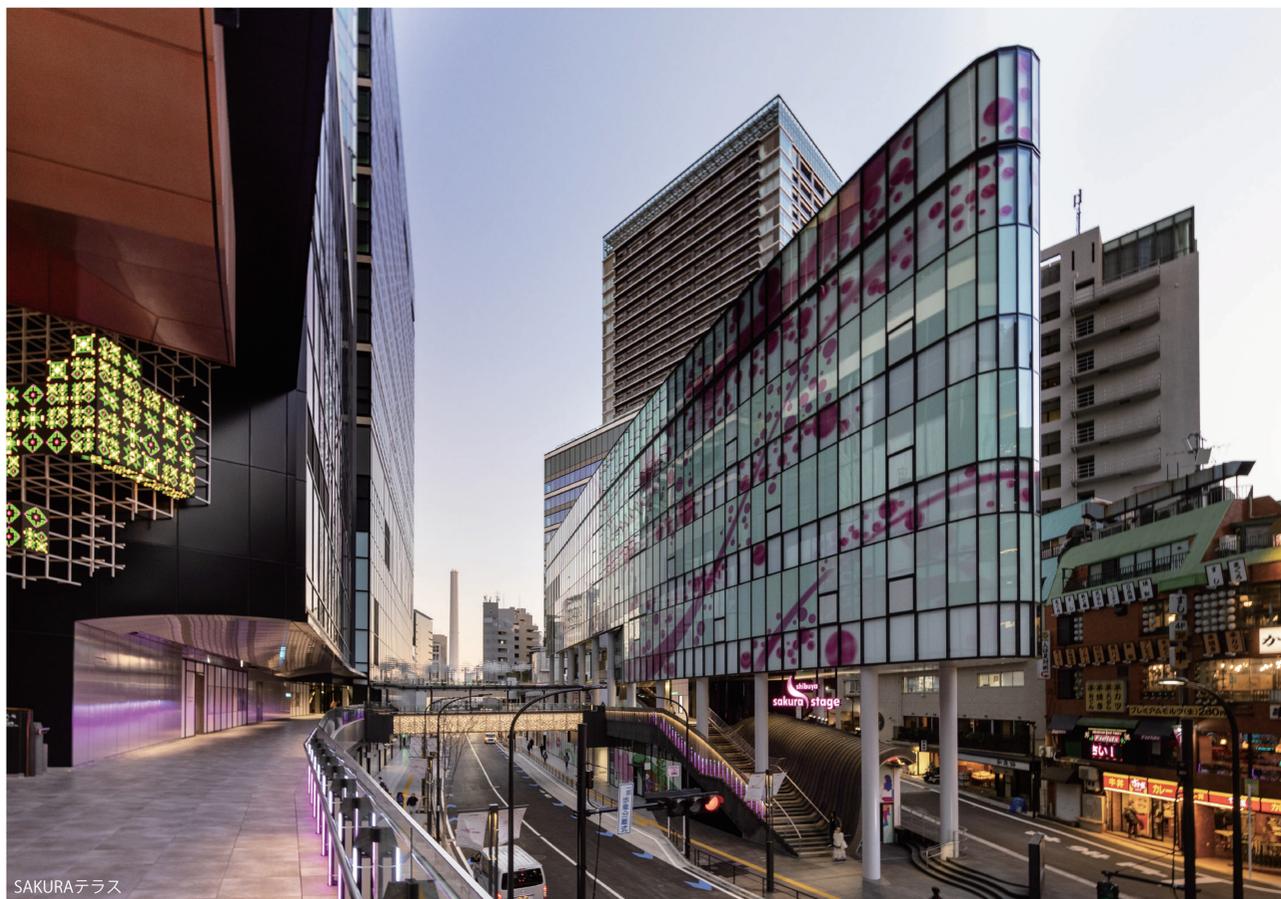
訪れる先々に
歓びがある、
めぐり歩いて、
楽しいまち



大地が隆起するイメージの階段



坂道と同じ勾配で登る階段の先にある「丘」



SAKURAテラス

■ PROJECT DATA

所在地 東京都渋谷区桜丘町
主要用途 複合施設(商業、オフィス、ホテル、住宅等)
デザイナー・ゼネラル 株式会社日建設計
有限会社ナスカー級建築士事務所
設計・監理 戸田建設株式会社一級建築士事務所

敷地面積 8,478.93㎡
建築面積 5,791.01㎡
延床面積 69,156.19㎡
階数 地下1階/地上30階
構造 RC造、一部S,SRC造
竣工 2023年11月

「SHIBUYA SAKURA STAGE (SAKURA SIDE)」

渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業(B・C街区)

SHIBUYA SAKURA STAGE (SAKURA SIDE)



SAKURAタワーのにぎわいSTAGEとはぐくみSTAGEをつなぐ「光る」トンネル



都心の高さを表現する邸宅のロビー



SAKURAタワー南側外観

■積層する異なる用途と平面・断面計画

平面・断面計画としては、用途毎に分かれた4つのブロックを立体的に積層した構成とし、積層される異なる用途の機能を満たした合理的なスパンとしつつ可能な限り整形な平面形となるように計画しています。用途ごとのヴォリュームを文節し、渋谷駅前五街区のデザインルールに配慮して長大な壁面にならないように、それぞれのヴォリュームを機能に合わせて分割したファサードとしています。

豊かな低層部の緑に抱かれた住宅、刺激あるまちを身近に捉えながら自由な発想で働くオフィス、「住むように滞在する」をコンセプトにしたホテル、等この施設が、このまちに来る人、ここを出発点とする人、すべての人々が自らのものがたりを発見・発信する「STAGE」となることを願っています。



住むように滞在するホテルのエントランス



クリエイティブな発想を促すオフィスのELVホール



包み込まれる地層を表現したホテル・住宅の車寄せ



にぎわいSTAGE



はぐくみSTAGE

■ PROJECT MEMBER

PM 村島大輔 片島雅彦
意匠 渡辺忠 宇根本真 田中秀幸 丸山耕平
吉井崇晃 今吉浩一朗 奥田美香子 柳直登
大井雅史 大原こころ

構造 清水隆 中村匠 川村将文 知野裕和
森悠吾 釣賀達稀

設備 福田秀雄 毛利広宇 小林秀樹 山田一貴
町田智章 森達也